

報告**御殿場市遺族会 活動**

御殿場市遺族会は、昭和30年に発足し、今日に至っています。遺族、特に第二次世界大戦で、太平洋戦争で亡くなられた家族の保護、そして戦争を行った事実、戦争で人が亡くなったということを後世に語り伝えるために、遺族会は存在します。

柱数932柱（戦争で亡くなられた人数）、会員787世帯で構成され、会員は静岡県遺族会、しずたまほうさんかい静霊奉賛会、日本遺族会、そして御殿場市内の各種行事に参加しています。県遺族会、静霊奉賛会は各種式典の執り行いや予算の管理、国への処遇運動等の業務を行っています。

現在、御殿場市遺族会役員は会長1名、副会長2名、理事10名、監事3名、評議員18名、その他顧問4名、計38名で構成されています。そして御殿場市社会福祉協議会に事務局をおき、業務をおこなっています。

市内の行事としては、富士仏舎利塔で行われる祈念法要、これは毎年7月25日に行われ、5年に一度約2,000名を集め大法要が行われます。また、3年に一度御殿場市民会館にて、『御殿場市戦没者追悼式－平和祈念式典』が行われます。

静岡県内の行事は静岡市柚木にある静岡県護国神社にて行われます。護国神社は32,000余坪、76,000余柱がまつられています。主な行事としては春季追悼式、まんとう万灯みたま祭、秋季追悼式があります。春季追悼式は例年4月23日ごろ行われ、護国神社境内の慰霊標前広場で、静霊奉賛会主催による追悼式と仏教会、県遺族会及び県戦災遺族会主催による慰霊祭が行われます。秋季追悼式は県東部、西部に分かれ10月22、23日に行われます。社殿前に於いて護国神社、県遺族会共催により追悼式が、引き続き神職による神事が斎行されます。春、秋の追悼式には来賓として国会議員、県議会議員など約1,300人が参列されていましたが、参列者数は年々減少傾向にあるようで、残念です。万灯みたま祭はお盆の時期と重なって8月13日の夕方、献灯式が行われます。献灯は手作りの灯明に命名を書いて社殿に奉納し、英霊の安らかならんことを祈念することとしています。以上が主な年中行事であります。

現在、遺族会活動を牽引しているのは70歳代の戦没者遺児が主であり、これを孫の代にいかにか引き継ぐかが今後の大きな課題であります。

御殿場市遺族会 会長 長田敏彦



春季追悼式へ参加 社殿前にて